

9がつのほけんだより

朝夕過ごしやすくなってきましたが、日中は湿度が高く蒸し暑かったりと衣類の調整や体調管理に戸惑うこの頃です。また9月は夏の疲れが出やすく体調がぐずれやすい時季です。生活リズムを整え、子どもも大人も元気に過ごせるようにしていきたいですね。

とびひの増える季節です

とびひは、夏の疲れが出る8月の終わりから9月ごろに多くなります。虫刺されの跡や傷に、菌が付いて発症することが多いようです。「傷がじゅくじゅくしている」「なかなか傷が治らない」というのがとびひの始まりのサイン。やがてかゆみの強い水ぼうがができます。これをかきこわした手でほかの所をかくと、そこにもとびひが広がります。



主な症状

- 皮膚に小指のつめくらいの水ぼうがができる
- 水ぶくれや、赤くじゅくじゅくした、ただれた状態になる
- 強いかゆみがある

家庭での手当て

- じゅくじゅくした部分はガーゼで覆う。皮膚科で処方された薬があれば塗ってから、ガーゼで覆う
- お風呂では湯船につかず、シャワーで洗い流して清潔を保つ
- 湯上がりはこすらずふき取り、薬を塗る



患部が乾燥すれば、うつる心配はありません。じゅくじゅくしていたら、ガーゼで覆いましょう



保育園からのお願い

とびひで受診し、医師の登園許可がおりても 傷の範囲や状態によっては看護師の判断で登園をご遠慮いただくことがあります。

※とびひの範囲とガーゼ類で保護できない場合は、傷が乾燥するまで登園をお控えください。

横手市内 手足口病急増！！

いではこども感染症情報
R2.8.12発行803号より

コロナ予防対策を頑張っているせいか、「今年は手足口病などの夏かぜの発生が少ないな～」と思っていたところでしたが、ここにきて手足口病が急増！！
今一度手洗いの徹底(おむつ交換の後には特に)とタオルなどの共有を避けましょう。



手足口病の原因ウイルスは複数あるので、かかったことのないウイルスに感染すると、大人でもかかる場合があります。
大人の場合、発しんの痛みが強くなり、インフルエンザにかかる前のような全身倦怠感、悪寒、関節痛や筋肉痛などの症状がでることもあります。



さまざまな感染症を予防するのに、コロナ対策が役に立ちます。



9月に注意してほしい感染症

～感染症・予防接種ナビより～



- ① 新型コロナウイルス感染症
- ② 腸管出血性大腸菌感染症
- ③ A型溶血性レンサ球菌咽頭炎(溶連菌感染症)
- ④ RSウイルス



呼吸器症状でのお休みが増えています



お盆明けから、鼻水や咳の症状でお休みの園児が増えました。乳幼児は鼻がつまると呼吸しづらくなり、ぐっすり寝れず不機嫌になることも。また、鼻がつまることにより、口呼吸→のどに炎症→咳や発熱といった症状になることもあります。症状が悪化する前に早めの受診をおすすめします。